

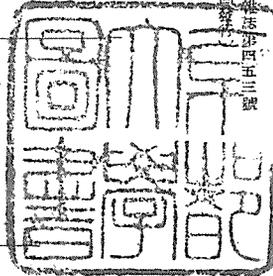
和二十四年六月一日延橋省特別授筆部雜誌第四五三號
和三十二年二月十五日印刷（毎月一回發行）

哲學研究

第三十八卷 第六册

第四百四十號

昭和三十一年二月二十日發行



實存哲學について……………ゲルハルト・クナウス

聖トマスに於ける esse と

existere に（して）（承前）……………山田 晶

——existere の意味の探究・第四トマスの用法（一）——

最高善について……………南澤 貞美

——カント辯證論の課題——

新着外國雜誌所載論文一覽

彙報

京都大學文學部内
京都哲學會

京都哲學會規約

- 一、本會は廣義における哲學の研究とその普及を圖ることを目的とする
- 一、右の目的のために次の事業を行う
 - (一) 毎月一回研究会を開く
 - (二) 毎年公開講演會を開く
 - (三) 毎月一回「哲學研究」を發行する
- 一、本會の事業を遂行するために委員若干名をおく、委員は京都大學哲學科教官及び委員會において推薦した者に委嘱する
- 一、本會は會員組織とし、會員には資格の制限を設けない、學校・圖書館・其他の團體は團體の名を以て入會することもできる
- 一、會員は會費として年一、二二〇圓、又は半年六一〇圓を前納する
- 一、會員は會誌の配布を受け、會誌に豫告する諸種の行事に出席することができる
- 一、本會は事務所を京都大學文學部内におく
- 一、本會規約の改正變更は委員會の決議による

京都哲學會役員

委員

有賀鐵太郎	池田義祐	石田仁	井島勉	上野照夫	白井二尙	酒井修	重澤俊郎	島芳夫	國原太郎	高田三郎	武内義範	田中美知太郎	長尾雅人	西谷啓治	野田又夫	松尾義海	三宅剛一	矢田部遠郎
-------	------	-----	-----	------	------	-----	------	-----	------	------	------	--------	------	------	------	------	------	-------

方向を辿る以外にないと考えられるだけの事である。更に言えば、道徳的實踐の極限に立つて恩寵と相接するという事は、幸福を自らも要求しようとする（如何なる意味でそれが言はれようと）理性の不純さが徹底的に洗い去られる事、即ち理性が直接的な自己主張を自ら乗り越え（自己否定）かくて新なる領域をひらく事を意味するに外ならないであろう。そこに於いて超絶的な天國がひらけるといふのではない。自己否定の後に来るものが安穩な幸福として、自己否定以前のものに他ならないとしたら、これ程おかしな話は有り得ないだろう。自己否定に續くものは、より厳しい道徳的實踐の絶えざる課題でなければならぬ。感性的なものが改めて受取り直されるという事は、前述の意味に於ける恩寵を介してしか達し得られないものとして受取り直されるといふ事に他ならない。それ故、逆に言えば、幸福に値する *würdig* という事は日常的な相對的比較の上に成立つ安易な意識ではなく、恩寵に相接し得る究極的な道徳的實踐の極致に自ら立つ事を意味するのでなければならぬ。かくてのみ始めて、カントの言う宗教、乃至信仰の本質が幸福を目的とする一切の不純なる宗教から決定的に斷絶されて眞正なる「理性信仰」として明かにされ得るであろう。恩寵を要請する事は實は恩寵をも含めて一切の他からの援助を期待する陰微なる傾向性を決定的に克服しようとする嚴肅な實踐理性の決意に發するのでなければならぬ。

(丁)

(筆者 京都工芸繊維大學繊維學部「哲學」講師)

〔前號所載第一論文（武市健人教授）の獨文
要約中の誤植訂正表〕

箇所	要約 2頁上から11行目
誤nimmt, die über- haupt der „Philosophie“ selbst
正nimmt, die über- haupt <u>den Standpunkt</u> der „Philosophie“ selbst.

會告

一、本會は會員組織とし會員には資格の制限を設けません、入會希望の方は京都市左京區田中西浦町弘文堂内京都哲學會係宛に規定の會費（年一、二二〇圓又は半年六一〇圓）をお拂込下さい

「振替口座京都一九五五六番 京都哲學會」

一、會費切れの場合は封筒に「前金切」の印を捺しますから直ちに御拂込下さい、一年分（又は半年分）會費は原則として本誌十二冊（又は六冊）の送附済を以て前金切れとし、會費の變更其他の事情による過不足は一年（又は半年）毎に精算します

一、會員の轉居入退會等（編集事務以外的一切）の事務は弘文堂内京都哲學會係へ御通知下さい

一、本誌の編集に關する通信・新刊書・寄贈雜誌等は本會宛に御送り下さい

京都哲學會

京都市左京區吉田
京都大學文學部内

昭和三十一年二月十五日印刷
昭和三十一年二月二十日發行

編集人

京都大學文學部内

右代表者

酒井

修

發行人

八坂淺太郎
東京都千代田澁田澁河堤四ノ四

印刷人

伊藤久春
京都市田中西浦町四〇

印刷所

弘文堂印刷所
京都市田中西浦町四〇

發行所

株式會社

弘文堂

東京都千代田澁田澁河堤四ノ四

註文規定

一、會員以外の購讀者の御註文及び廣告に關する件は「弘文堂」へ御申込下さい

一、本誌の御註文はすべて代金郵稅共（一部、定費一
二〇圓・郵稅八圓）前金にてお送り下さい

一、特に請求書及び領收書等を要する場合は郵券八圓
をお送り下さい

三十三
年
二月
二十五
日
印刷
（一月
一回）

THE JOURNAL OF PHILOSOPHICAL STUDIES

THE TETSUGAKU KENKYU

Vol. XXXVIII

February, 1956

No. 6

Über die ExistenzphilosophieGerhard Knauss

On esse and existere in

St. Thomas Aquinas (VI)Akira Yamada

On the Highest GoodSadami Minamisawa

Published Monthly

By

THE KYOTO PHILOSOPHICAL SOCIETY

(The Kyoto Tetsugaku-Kai)

Kyoto University

Kyoto, Japan

定價
金一三〇圓